

「夢ワカメ・ワークショップ」と「アマモ種まき活動」に参加

マルハニチロ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：池見 賢）は、11月26日（土）に開催された「夢ワカメ・ワークショップ」および「アマモ種まき活動」に参加しました。

【実施概要】

- ・日 時：2022年11月26日（土）12:00～15:30
- ・場 所：神奈川県横浜市西区みなとみらい 臨港パーク潮入の池
- ・主 催：夢ワカメ・ワークショップ実行委員会（「夢ワカメ・ワークショップ」）
国土交通省 関東地方整備局 東京湾 UMI プロジェクト（「アマモ種まき活動」）
- ・参 加 者：マルハニチログループ社員とその家族 61名

【「夢ワカメ・ワークショップ」について】

海藻が海の栄養塩を利用して生育することから、海藻育成を通じて富栄養化した海域環境の浄化を目指す活動です。ワカメの育成を通して、子どもたちの海への関心を高め、環境改善や人と人のつながりの大切さを知ってもらうことを目的とし、2000年より開催され、当社は2015年より参加しています。昨年、一昨年はコロナ禍により一般の方の参加は見送られていましたが、今回3年ぶりに当社グループの社員とその家族61名を含め、一般の方が200名以上参加するイベントとなりました。



参加者と日本テレビ「ザ！鉄腕！DASH！！」の企画「DASH 海岸」に出演の木村先生と
NPO 法人海辺つくり研究会の木村尚さんの集合写真



ワカメに付ける名札を作り、ボランティアの方々に教えてもらいながら、ワカメの種糸をロープに取付ける参加者

今回は、岩手県釜石市と神奈川県横須賀市からいただいた2種類のワカメの種糸をロープに取り付け、海中に設置しました。2023年2月中旬に、大きく成長したワカメを収穫する予定です。



ダイバーが種糸を取り付けたロープをイカダに設置します。この状態で2023年2月までワカメの成長を待ちます。

【アマモ種まき活動について】

水質浄化や二酸化炭素の吸収固定機能を持ち、生物の生息場所にもなるアマモ場を再生させる活動です。国土交通省関東地方整備局が臨港パーク潮入の池の前面海域に整備した浅場での、アマモ場再生の実証試験でもあります。

種まきには、6月上旬に当社も花枝採取に参加した、千葉県木更津市盤洲干潟のアマモの種を使用しました。粘土にアマモの種を100粒ほど付け、土台ごと海中に埋めました。土台に使用した粘土は貝殻と同じ成分で添加物が入っていない、海に還る素材で作られています。

今回は種まきだけでなく、NPO法人海辺つくり研究会の皆さまにアマモ場の働きや再生活動の詳しい説明、また水中ドローンを使った海中の様子を紹介していただき、参加者は真剣に聞き入っていました。



粘土にアマモの種を付ける様子



ダイバーが粘土の土台ごとアマモの種を海中に埋める様子



アマモ場の働きや再生活動の詳しい説明、水中ドローンを使った海中の様子を紹介を聞く参加者

マルハニチログループは、ブランドステートメント「海といのちの未来をつくる」のもと持続可能な世界をめざし、今後も地球環境や海洋資源に配慮した、環境保全および教育活動を支援してまいります。

【本件に関する問い合わせ先】

マルハニチロ(株) 経営企画部 サステナビリティ推進グループ
kankyou@maruha-nichiro.co.jp